

男女問題について考えたこと

高浜町立高浜中学校 二年 鯛釣 春乃

今の日本社会は、男女が平等に扱われ、男女が平等に活躍することができ、機会がもっと増える必要があるのではないかと思う。

そう考えるきっかけになったのは、人権について考える中で、家や学校でこれまで見ていた、いつもの光景に違和感を感じるようになったことである。

私の家では、いつも母が家事全般をしている。だからよく母が、「もう少し手伝ってくれてもいいんじゃない。」と、父に家事への参加を促すことがある。そんな声に対し、父は重い腰を上げる時もある。疲れている時などは、理由をつけて動かないこともある。その光景はいつも通りのことなので、これまでは特に気にすることはなかった。

しかし、道徳の授業で公平や平等について学習する中で改めて考えてみると、その当たり前前に感じていた光景は、おかしいことではないかと感じるようになった。お母さんだって仕事をしていて、いつもお母さんだけが家事をするのはおかしいと思う。他の家もそうなのだろうか？と調べてみると、日本の家庭の男女の家

事の分担の割合について、男性がしている割合は「一〇三割」女性
性がしている割合が「七〇九割」と、圧倒的に女性の負担の方が
多いという結果であった。また、女性の声として「やるなら最後
までしてほしい。」 「私が疲れているときに家事を頼まないでほ
しい。」など、女性に多くの不満があることもわかった。日本に
は古くから家事は女性という固定観念があるらしい。私もこれま
ではそうであったが、そういった固定観念があり続ける限り、今
の状況は改善されないし、男女がお互い平等な立場で意見を交わ
し、負担を分け合えるということは難しいはずである。家事のよ
うに、分け合うことができるのに、女性に負担がかかっているも
のに関しては、男女で協力し合い手を取り合って行うことが大切
だと感じている。そのためにはまずお互いが思っていることを正
直に話すこと。その思いを互いに理解することができる平等な関
係を築くことが必要である。もしも、知らず知らずのうちにどち
らかに負担がかかっているのであれば、それに気づくことも大切
だし、気づいたことを変えようと努力することも大切である。

このような固定観念は学校生活でも見られる。例えば、部活動
で野球部には男女どちらでも入部することができ。しかし、野
球は男子がするものという固定観念が強く、女子は入りにくいと
感じているのではないだろうか。私の中学校では、女子で野球部
に入部していた先輩がいた。その先輩とはあまり親しいわけでは

なかったが、周りが男子ばかりなのに自分の好きな野球に精一杯取り組んでいる先輩の姿を見て、「すごくカッコいいな。」と感じた。その先輩の「女子だからできない。」ではなく、性別に関わらず自分の好きなこと興味のあることだから「やりたい。」という思いを行動に移す姿に憧れを持つし、私も真似して、いろいろなことに積極的に挑戦したいと感じさせてくれる存在であった。

男女の壁を越えて好きなことや、やりたいことをするためには、個人の思いも大切だが、環境の整備も必要である。学校でいうと、制服は、男子がズボンで女子がスカートという決まりは、個人の思いだけではどうにもならない。自分の好きな方を選択できるようにルールを変えることもその一つではないであろうか。他にも、様々な場面で「男女別」をなくすことも必要だと思う。そういうものを無くしていけば、一人一人の個性が輝き、みんなが学校生活をより楽しんでいけるのではないだろうか。

これからは、「男性だから。」「女性だから。」といった自分の固定観念にとらわれず、自分の好きなことをやっていきたいと思う。そして男女の差別について、自分も関係ないことではないので、これから詳しく知って、小さなことから行動していき減らしていけるとよいと思った。ただ、これは私だけが考えていてもできる問題ではないと思う。多くの人がこのような状況を知り、どうしていくとよいか考えること。「男性だから。」「女性だから。」

ら。」といった固定観念をなくしていくことが必要だと思うし、そういう考えがどんどん広がっていったらほしい。日本全体がそのような考えになれば、女性の不満も減り、負担も軽減され、女性が社会で活躍する場面も増えるのではないだろうか。

世の中には他にも様々な差別がある。その差別は一人一人の固定観念を変えることでなくすことができるものも多いのではないだろうか。一人一人の個性が輝き、それぞれが尊重されるそんな世の中になってほしい。そのために全ての人々のより身近なところにある「男女平等」ということについてあらためて考えていく必要があると感じている。